いわき民報
發行所　いわき民報社　平市田町一番地（電話三八一番）
編輯發行人 印刷人　千輝克己
定價 一ヶ月 參円 一部 十五錢

常磐産業株式會社
常磐興業株式會社
社長 高山弘
平市撥槌小路 電三七二番

不正地主に共同警告

供出委員會結成 土地闇賣買抑制

農組代表會議から

日本農民組合石城郡協議會主催農民組合代表會議は二十四日午前九時から平市公會堂日本間に開催、從來の農地委員を廢し地方事務所、町村側代表、農民組合代表を以つて土地委員を作ること、土地の闇賣買の抑制と小作人からの不法土地取上げを禁止する一方不正地主に對し農組と地方事務所から共同警告狀を發すべきこと、褒償物資の明示供出の公平を期するため供出委員會を作るべしとする外、強權絶對反對、農繁期中の増配を地方事務所並に郡農業會へ要請した、この外同農組協議會が新たに購買部を作つて農具、肥料、日用必需品の共同購入へ乘出す一方空閑地利用へも力瘤を入れ梅を郡内各堤防に植込み更に發芽の關係で稻苗も不足してゐるのでこれが對策として電熱利用苗床も早急に實施すること等も協議した

飽迄行政的に善處

高田地方事務所經濟課長談

日本農民組合石城郡協議會の要請に對し石城地方事務所高田經濟課長は語る

農地委員會は選擧によつて選ぶものであり近くその改選があるから農民の意志を反影して本當に農民の爲に働いて呉れる人を選べばそれで良いと思ふ、小作人に對する不法土地取上げは困るが小作料も納めずにゐる者では取上げられるのも當然だ、地方事務所としては飽迄行政的に善處して行きたい、地主に對しても話合が出來てゐるから改めて警告狀を出す必要はないと思ふ褒償物資の明示は各町村役場に行つて見れば明瞭だし今後も續けたい、供出委員會は改めて作る必要もないと思ふ、農民の意志を本當に反影したならそれでやつて行けると思ふ、強權については成可く差控えるが他人から指を差れるやうな農民は斷乎たる態度で臨なければ他の農民が納得しないだらう、農繁期中の増配は是非行ひたいと思つてゐるが、現下の食糧事情では致仕方ない、藷でも早掘して農繁中だけでも喰べるやうに創意工夫を凝して欲しい

小名濱町の助役問題

近く協議會召集 長瀬氏說も有力

志賀小名濱新町長が山積せる町政問題を如何に處理するかは各方面から注視されてゐるが、殊に當面の問題たる助役推薦を如何になすか興味をもつてみられてゐる、助役は現行法によれば町長が推薦、町會へ報告さへすればよいことなつてゐるが、志賀町長としては豫め近く協議會を開き町會側の意向を打診してから處理、町の圓滿を期する肚とみられてゐる、目下のところでは高木元町長時代から噂がありながら種々の關係から實現をみなかつた長瀬國三郎元助役の呼聲が相當にあるとある

村會と青年對立か

小川村議連廿七日急施村會を

青年の村政改革の烽火に上下小川組合村々會は急遽、二十七日緊急村會を開いて青年に對する態度決定、その他について協議することに決つた、村議中には今回の青年の態度に面白からぬ感情を抱いて、この際斷然押へて置かねばならぬと豪語してゐる向もあるので、青年と村會の對立は目下のところ不可避とみられ成行を各方面から重大視されてゐる、然し青年側は一度火蓋を切つた以上飽迄徹底的に改革すべき点は改革、封建思想を根本から打破歪き民主化を目指して態度强硬である

青年側では村民大會

廿六日幹部會

上下小川組合村では青年大會の結果に基いて櫛田村長が退陣することになつたが、青年側は更らに徹底的村政を期するため、明二十六日幹部會を開いて村民大會開催の期日、その他について協議を逐げることになつた

配給問題のみ決議から削除

村長の希望容れ

小川青年大會の村政改革決議中に配給問題も含まれてゐたが、このまゝでは一見櫛田村長は配給面に絡んで退陣するが如き感を村民に與へるといふのでこの項目を決議中から削除され度い旨村長から申入れがあつたので青年側は大會後幹部協議の末、既に退陣を聲明した以上村長の希望も或る程度容るゝ要もあらうとあつさり村長の希望を容れ決議中から削除した

湯本町の罹災者數

湯本町の現在の罹災者及び外地引揚者數は左の通り

罹災者　五四〇戸　一、三一九人
外地引揚者　九〇戸　二五八人

共産主義は眞平御免

滿洲から還つた市内の四氏

滿洲からの引揚げ開始に依り平市廳匠町一三三瓶市助さん（三三）同七軒町三七本多喜三郎さん（四八）同六間門一鈴木利平さん（五九）同南町三七中村三造さん（三七）の四人が歸つて來た、何れも現地で苦しんで來てゐるため共産主義は眞ツ平ですと反共を叫んでゐる

大貫社長就任

西部鑛業會長に

日本石炭鑛業會の創立總會は去る二十二日日本工業倶樂部で開いたが、總代會の結果常磐炭礦社長大貫經次氏は西部地方鑛業會長に就任した

落磐で壓死

勿來町酒井字出藏採炭夫長島將夫さん（二三）は三十三日大日本炭礦本坑で作業中落盤のため壓死した

平市常會

上通事項は皆無

平市常會は二十五日午後一時より公會堂日本間に開催、二十日の火災に鑑み特に隣組を通じ火災豫防を强化すると共に防火用具の常備を怠らぬやう市民へ要望、田島司の罹災者に對しても一戸三十錢以上を醵出して見舞金を送るべく申合せた、この外食糧問題も俎上にのぼり消費規正の强化、隱匿物資供出の促進食糧増産の指導推進、空間地利用等を懇談したが區内會側から上通事項は皆無であつた、尚平區裁判所岩住監督判事を市常會顧問に推薦した

罹災者に特配

平地區配給統制組合では二十日の火災で罹災したものに見舞品としてお茶二貫匁を贈ると共に鍋、皿、石鹸、タオル、マッチ等の日用品も特配した

世相と逆行の就職熱

希望は豫想の一割七四三名

男子より女子が比較的多い

失業對策の基本的資料としてその結果を注目されてゐた平勤勞署の就業希望調査は深刻な世相と逆行して極めて低調で同署の豫想から見ると約一割に當る七百四十三名の數字であつた、これに依ると全然の無職者は殆んどなく一般に生計を營む何等かの職業にありついてゐること、失業者として表面に引出され特別扱されることに忍びないこと就職について未だ消極的なこと等があげられる、調査の結果は男子四百八十四名、女子二百五十九名で女子が比較的就職希望が多かつた、町村別に見るとまちくで内郷、湯本が多く、同じ炭礦街でも好間は一番少なく結局町村側の熱意如何に依つて多い處と少ない町村が出來たわけである、平勤勞署では一般失業者と知識階級（中等學校卒業以上）の統計を作成したが次の通りである

一般失業者の希望は

男は工礦運輸女は礦山關係

【一般失業者】インテリー階級を除いて男子三百十一名、女子二百二十三名計五百三十四名で希望職業別は

▼男子—工業百二名、鑛山五十三名、運輸四十名、會社事務員二十二名、土木建築二十一名、水産業十七名、商店十六名、通信勞務十名、技術者七名、官公吏教職員五名等

▼女子—鑛山勞務者四十六名、事務員四十五名、工業三十三名、醫療理容二十一名、商店十名、家事使用人五名等で男は工鑛運輸が多く女は鑛山事務員等が希望者多い、更に現在の職業に不滿で轉職を希望する者は男子十二名（鑛工各四名通信二名）女子一名あつた

インテリの希望職種

事務系統ばかり

【知識階級失業者】男子百七十三名、女子三十六名計二百九名、うちインテリーだけに事務員會社員が多かつた

▼男子—會社事務員八十名、技術者二十名、工業十四名、鑛山十名、土建九名、商店六名、通信六名等

▼女子—會社事務員二十六名、商店三名等

醫師、高級船員等を希望するものは一人もなかつた

轉業希望者は男子七名（工業、通信各二名）女子一名であつた

湯本の出生兒

湯本町四月の出生は男兒十八人女兒十四人又二十三日現在で男兒八人女兒十人である

回覽板で闘爭趣旨闡明

東北配電從組が

東北配電平事務所從組では會社側の闘爭も勝利の凱歌で幕となる氣配が濃厚となつたので、この際一層團結を强化且つ郡市民大衆の力强い支援の下に、全き勝利を獲得しやうと二十五日各管内市町村隣組に回覽板を通じ闘爭の趣旨を闡明すると共にサービス强化と需要者側の希望申込みを待つ旨を聲明した

作業用具類の修理を勞組で

磐崎勞働組合では増産を目ざして作業用道具の修理の高價なばかりか日數も相當かゝる處から特に鋸の目立などは勞組で引受けその日の作業に支障を來さない樣に努めてゐる

失業對策事務打合

平勤勞署では就業希望調査も一段落ついたのでこれを資料に各市町村側の協力を得て失業對策を强化するため二十五日午前十時から同署に管内市町村職業係主任事務打合會を開催、失業對策纎維勞務の充足並に石炭勞務の充足狀況等に關して打合を行つた

いわきす言

▼滿洲から市内の四氏歸る曰く〝共産黨は眞平御面〟と、現地での体驗からの叫び、愛される黨への野坂氏の歸國以來盛んに大衆に媚びるがこの眞實の叫びで木葉微塵に消し飛ばされたといふもの

▼勤勞者の豫想に反して失業者僅かに七百余名で一割にもないとある、さりとて見渡したところ街には失業者が溢れてゐる態、見榮や外聞から屆出を僞つてゐる向が多いのではないかとある、まだ見榮を張つてゐられる中はよいといへるか、寒心仕り候

▼一般失業者は工業、鑛山等の收入多く加配米のあるところを望むものが多い、殊に女子では鑛山勞務者志望が多いとは如何にも深刻な食糧事情を物語るものといへやう

▼一方インテリ層は相變らず事務系統志望とある蒼白きインテリの言葉はいつになつても絶えぬものらしい

工場經營の民主化へ
工員の代表からも重役を
示唆に富む新星硝子工業

會社は株主のものといふ見解は封建的であり、眞の發展は期し得ない、どこまでも社員のものであり、從業員の經營であらねばならないと、平市佃町星アンプルでは今度有限會社から資本金五十萬圓の株式組織に改組、名稱も新星硝子工業株式會社と改め醫藥用、化學用その他一切の硝子製造に乘出すことになつたのを機にこの重役員會を開き定款を變更、社員も職工も株を所有しなくとも株主と認めて新重役陣は、株主代表、社員代表及び職工代表の三者により結成することに決定した、會社側自らが經營の民主化を期したことは縣下最初のもので、社員も職工達も寢耳に水の經營參加に大喜びで〝俺達の會社だ赤字なぞ万が一にも出してはならない〟と張り切つてゐるが、要求だ、闘爭だ、經營管理だと各方面で騷ぎ拔いてゐる折柄、今後の會社、工場の經營に大きな示唆を與へるものとして各方面から注視されてゐる

を經營する一面四倉東玉山で石材採掘等も實施、從業員百五十余名を擁し、石鹸なぞ日産三十万個の能率をあげ京濱及び阪神地方に移出、又姉妹會社として常磐興業株式會社をも眞木桓辯護士を顧問に小川坑その他を經營、鑛業界へも進出、素晴しい業績をあげてゐるもので、今後の活躍に一層大きな期待をかけられてゐる

臨床試驗室も開設
創立一週年を迎へ躍進振り
目覺しい小名濱富ケ浦病院

濱通り唯一の綜合病院として醫療報國に邁進、地方民感謝の的となつてゐる醫學博士安田善一氏の經營する小名濱町富ケ浦病院では、今度佐藤忍副院長を主任に臨床試驗室をも新設したが一週年記念を迎へ更らにレントゲン科を始め物理療法にも完全なる各科を、齒科等と共に開設し縣下一の綜合病院に躍進せしめることとなり目下準備を急いでゐる尚地方民の要望に應へ病院の擴充に分院の設置も計劃中である、尚全院の一週念記念日は二十八日なので當日は盛大な記念式を擧げることとなつてゐる

開放
投稿を歡迎す　要點批判結構　紙上匿名可

交通道徳と學校教育

▼…交通道徳の問題は戰時中も終戰後も喧しく唱へられ、警察當局も隨時整理の勞をとられてゐるにも拘らず市中は依然として道徳もへちまもあつたものでない小さな漸く歩くやうな子供を連れたお母さんがのんびりと右側を歩いて來る、學生が金魚の糞のやうに、ぞろ〱と横一文字に並んで道幅いつぱいになつて歩いてゐる

▼…終戰前までは學生達はなか〱見事な訓練振りを示してゐたのに終戰後は今までの訓練もどこへやら滅茶〱な始末である、おまけにその服裝のだらしなさ、これが大國民の態度であらうか、全く敗戰國はかくも慘めなものとなるのであらうか余りといへば余りに慘めではあるまいか

▼…敗戰國民としての態度はもつと秩序正しくあつてこそ再建も出來るといふもの、こんな態度では祖國の再建どころか、六等國民は劣か滅亡に導く姿となるのは明かなものと思ふ、殊に今後の祖國を背負つて立つ學生達がこれでよいといへるか、過日の紙上でも武藏山人から一矢放たれてゐるのにも拘らず更らに反省の色もみせぬのは何事か

▼…この責は學生自身の無反省さにあるが、一面には先生方が給料のみで學問の切り賣りをし訓育方面に又校外生活の指導に無關心さがこゝに至つてゐるのである、學問は人格の反映として徒らに詰込み主義に走らずもつと生きた勉强を敎へてやつて貰へないのだらうか、先生方の御指導も是非願したい

（交通生）

食糧危機の救濟に
粉食の加工製造工場を創立
●資本金五十萬圓で正木氏が

窮迫せる食糧問題解決の一助にと昨今山野草及び海草類の採取食糧化が喧しく叫ばれてゐる折柄、今度平市に平粉食加工製造株式會社が資本金五十万圓で創立されることになつた、右は平第一通信工業株式會社々長であり平土地住宅の專務で少壯實業家として活躍する正木昌次郎氏を社長として誕生するもので、工場は第二國民學校入口の五百坪の地に建てる、設備は高速粉碎機二臺、乾燥機一臺、電熱機一臺、電氣製パン機一臺で、これは既に到着した事業の內容は甘藷、南瓜等々の蔓から、山野草或は海藻等々何でも食用に供し得るものを粉碎してこれをパンとして市場に出さうといふもので、更らに農村等の希望によつては山野草や海草類の依託製パンも行ひ又兒童等が旅行等に持參したい場合は原料草藻を持參されば一定のパンを交換に即時與へて、惠まれない兒童達を喜ばせやうとの奉仕的な氣分で行ふ外大、小麥等の製粉も一定の歩どまりを定めて請負はんともする計劃をもして居り、高速粉碎機は一日一臺二十石の高能率、製パン機は三十分間に百六十個燒き得る最新式のもの、來月草々着工八月頃迄にはどし〱製品を出さうとの豫定とあり各方面から期待されてゐる

進出目覺しい
常磐産業
建築部門も新設

平市才槌小路常磐産業株式會社長高山弘氏は今度戰災都市の復興に協力するため、土木建築事業へも進出することに決定、陣容を整備目下準備を急いでゐる全社は現在泉村下川に石鹸工場

小名濱港に一偉力
港灣運送の設備擴充さる

小名濱港灣運送株式會社では、終戰以來橫濱港運との契約の下に進駐軍の押收武器整理作業に當つてゐたが、去る二月で無事故の裡にこの大役を果したので今度いよ〱本來の使命たる一般荷役作業に活躍港灣設備の充實による〝みなと・小名濱〟の發展に寄與することになり、先づ上町の本社を岸壁埠頭に移轉新築することゝし準備を急ぐと共に、臨鐵引込線を埠頭まで延長、專用倉庫、三噸クレーンの外に船舶と貨車の直接荷役に五噸ジブクレーンと豐噸電動ホイストの新設中で、同時に專用トラック陣も強化し又一面海上保險の斡旋、海上輸送の一般相談、碇泊船員の慰安接待設備をなすことになつたが小名濱港に一偉力を加へるものとして期待されてゐる

星製藥でも
第二工場を

平市五丁目星製藥福島工場では一躍資本金を百万圓に增資すると共に、大町青物市場を買收第二工場を建設することに決定、二十八日地鎭祭を執行、今夏八月までに完工の豫定で着工する

總坪數四百坪で、ここでは主としてブロームカリ、ブロームカルシウム、ゼラチン、マーギロ睡眠劑等を製造することになつてゐる尚全工場は二十八日が丁度創立一週年記念に當るとある

星製藥の藝能大會

平市星製藥工場では二十八日創立一週年記念となるので、全從業員の慰安藝能大會を開催する

生活と文化
古今集雜記
千輝克己

（4）

古今集は前述の如く種々なる特徴は持つてゐるけれども、全二十卷を通じて深い感動を基盤とする詩歌本來の姿から眺める時は案外に寥々たる感が深い。當時貞觀寛平の時代に亘つて歌合せの遊びが禁中に流行、奇想を競ひ巧妙を爭つたが、集中にも歌合せにて詠めるとのものが多い。例へば卷四には

寛平の御時きさいの宮の歌合の歌
秋風に聲をほに上げて來る船は天の門渡る雁にぞありける　（藤原菅根朝臣）

といふのがある。少しの情熱もない惡洒落である。古今の弊はこの遊戯的な氣分にある。巧妙なものもあるが感動がない空言に終つてゐる。更らに卷四に

鳴きわたる雁の涙や落ちつらむ物思ふ宿の萩の上の露　（讀人しらず）

といふのがある。宿の萩に露が置かれてゐるだけのことをかく大袈裟に歌ひながら少しの感動もない。これが古今には萬葉や新古今よりも秀歌が少く、不精選の萬葉に劣ると先覺がいふところである。故正岡子規なぞは

貫之は下手な歌よみにて古今集はくだらぬ集に有之候

とさへいつてゐる。

結局古今集の短歌は巧みさに溺きてゐる。長所も短所もこゝにあるといへる。然し先例を破つて一種の詠風を開發した功績は認めらるべきであらう。又古今では長歌の著しく少いのも萬葉の悠遠なのに比較にならない

この集での作者の主なる人は編者の四人の外、小野小町、在原業平、僧正遍照、伊勢、素性法師、小野篁、大江千里、藤原敏行、藤原興風、在原行平、淸原深養父、平貞文等であるが在原業平を除いては天才的素質を有した眞の歌人は殆んどないといつても良い。それよりもかへつて讀人知らずの歌に異彩を放つてゐるものが多く又卷尾に附した東歌になか〱眞率なものがある。これは一考に價するものといへる

短歌
日本青年文藝俱樂部短歌部
諸橋富彌

最勝院にて

とのくもる日を啼きつぐは田雲雀か端反り床しき伽藍の上に

南風誘ふ波のしぶきのあるかなく御堂のいらかふれも濡らして

飛び交ふは蜂の翅など光るにか眠くるめくして牡丹のあたり

秋成も牡丹の蔭に現れて出でむ唐燈籠に灯の入るころは

庫裡うちは僧も居ぬらしひつそりと牡丹の咲くを見ては歸りぬ

雜草園閑吟

ほと〱に山吹の花も散りつきて庭に浸みゆく雨のしづけさ

つれ〱にブツクカバーなどものじゐぬ春雨の遠く鳴る如き日に

春の風は小蜘蛛の糸を吹きたわめ濡縁の端にもふれでおろしぬ

待てど來ぬ日はひねもすのあじけなさ支那水仙も活けてしものを

妖しくて人の戀はるることの宵は手觸れ愛で居り無明異の肌

キリ印クスリ
◎…大乙膏
◎…生盛素
◎…胃腸藥
◎…カゼ藥
◎…濕布藥
生盛藥劑株式會社
福島縣總代理店
湯本町郊外長倉
生盛堂

開業
トロリー式機
パーマネント
ウエーブ
化粧品部高級化粧品豐富
メイ美容室
平市田町六七銀座通り

硝子類　電球
木工煉瓦製造
佐藤幸太郎
平　事務所　田町電七一・四五五
東京事務所　東京都芝區新橋烏森ビル電五七　四八三二
小名濱出張所　小名濱町定西電一〇七
工場電話　（平）二七三　二九二　三八九　八三五　三五〇

▼開店！
皆様のカメラの店
長らく御不便をお掛けして濟みませんでした
遅ればせながら開店致しました
從來通り御引立下さい
平市三丁目
茂木カメラ店